

卒業論文の要旨

論文題目	現代社会における「エシカル消費」の意義と射程ーラスキンとシューマッハーの倫理思想を手がかりにしてー
氏名	穴倉 椰夕
メジャー	倫理学
<p>(要旨)</p> <p>本論文は、近年注目を集めるエシカル消費概念の根幹にある思想や消費のあり方、その先にある社会構想について、ラスキンとシューマッハーの倫理的経済思想を手がかりに考察したものである。</p> <p>まず第1章においてエシカル消費の高まりに言及しつつ、本論への導入を行い、つづく第2章と第3章において、エシカル消費の定義や成立背景、課題点を含めたエシカル消費の概要について先行研究と手がかりに検討した。第4章では、エシカル消費の「エシカル(倫理的)」とはどのような思想的系譜にあるものなのか、という問題をより深く考察するため、ラスキンとシューマッハーの倫理的経済思想の意義と射程の読解に取り組んだ。</p> <p>そして第5章において見出された結論は次の通りである。すなわち、ラスキンにおいては「賢明な消費」、シューマッハーにおいては「適正規模の消費」として表される消費のあり方は、現代におけるエシカル消費を指すといえる。つまり、ラスキンとシューマッハーの経済倫理思想が目指すのは、モノ自体の〈価格(price)〉ではなく、〈価値(value)〉を重視する社会への転換なのである。ラスキンとシューマッハーの文脈からみれば、エシカル消費によってわれわれが目指す社会とは、このような経済倫理思想に支えられた持続可能な社会である。要するに、この持続可能な社会にあってエシカル消費は不可欠であり、同時に消費者の義務でもある。このような立場からこそ、われわれにはあるべき消費のあり方を問い直し、消費者倫理という分野を開拓する必要がある。そしてその基礎づけに、ラスキンやシューマッハーに代表される経済倫理思想は不可欠なのである。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>人類は、21世紀前半にあって、貧困や紛争、気候変動、感染症等の人類史的危機の増大に瀕している。こうした中で注目されているのが、SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みである。</p> <p>本論文は、こうしたSDGsの中の12番目の目標(「つくる責任、つかう責任(持続可能な消費と生産のパターンを確保する)」)にリンクする「エシカル消費」という近年注目される消費者運動の意義と射程に関する倫理学的研究である。その際、関連する先行研究に学びながら、さらに「エシカル消費」運動を生み出すに至った先駆的問題提起としてラスキンとシューマッハーの経済倫理思想に着目し、その彼らの主要著作を手がかりに、「エシカル消費」の系譜学的な基礎づけを試みている。</p> <p>こうした問題関心や分析視座、研究手法から行われたこの「エシカル消費」研究は、日本ではなぜか未だに試みられていない。この意味において、本卒業論文には現代的な意義と独自性があると言える。以上から、卒論指導教員として、本論文を2023年度のLA学群優秀卒業論文として推薦するものである。</p> <p>中島 吉弘 リベラルアーツ学群教授</p>	